

# 肺がん検診ガイドラインが新しくなりました！

国立がん研究センターでは、『肺がん検診ガイドライン』2025年版を公表しました。

肺がんによる死亡率が減る科学的な根拠が得られたための指針改定となります。

対策型検診では現在40歳以上の方で重喫煙者については、年1回の胸部X線検査を行い、さらに50歳以上の方には併せて喀痰検査を行ってきましたが、今回の改定では、重喫煙者の方は喀痰検査に代わりCT検査を推奨することになりました。

当院では320列の最新CTを導入しております。この最新CTでは早く精密に撮影できるだけでなく、搭載されているAI技術により、胸部検診CTをなんと胸部レントゲンと同程度の被ばくで撮影できるようになりました。

たばこを吸われる方、吸われていた方だけでなく、健診を受けられる全ての方へ、肺がんの早期発見のため、安心して年1回の胸部CT検査を受けてみてはいかがでしょうか。



国立研究開発法人  
国立がん研究センター  
National Cancer Center Japan

報道関係各位

## 科学的根拠に基づくわが国の肺がん検診を提言

### 「有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン」2025年度版公開

2025年4月25日

国立研究開発法人国立がん研究センター

#### 発表のポイント

- 「有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン」2006年度版公開後、新たな研究の科学的根拠を検証し、わが国で推奨する肺がん検診ガイドラインとして提言をまとめました。
- 低線量CT検査の推奨グレードは喫煙状況により異なり、重喫煙者(喫煙指数600以上)においては、推奨グレードAで対策型検診及び任意型検診として実施(対象年齢は50-74歳、検診間隔は1年に1回)を推奨します。
- 重喫煙者以外の方に対する低線量CT検査は推奨グレードIで、対策型検診として実施しないことを推奨します。任意型検診においては、医療者が利益と不利益に関する適切な情報を提供したうえで、検診受診者個人の判断に委ねます。現在、日本で重喫煙者以外の低線量CT検査の死亡率減少効果を評価するための無作為比較対照試験が進行中のため、注視していく必要があります。
- 喫煙状況や対象年齢を遵守しない場合、低線量CT検査の不利益が大きくなります。
- 胸部X線検査は喫煙状況にかかわらず推奨グレードA(対象年齢は40-79歳、検診間隔は1年に1回)です。
- 重喫煙者に対する胸部X線と喀痰細胞診併用法は推奨グレードDで、対策型検診として実施しないことを勧めます。

#### これまでの肺がん検診

たばこを吸わない人/時々吸う人

胸部X線検査  
(40歳以上、1年に1回)



#### 新しい肺がん検診(案)

たばこを吸わない人/時々吸う人

胸部X線検査  
(40-79歳、1年に1回)



たばこをたくさん吸う人/  
たくさん吸っていたが止めた人

胸部X線検査  
(40-49歳、1年に1回)  
胸部X線検査に喀痰細胞診を追加  
(50歳以上、1年に1回)



たばこをたくさん吸う人/  
たくさん吸っていたが止めた人

胸部X線検査  
(40-49歳、75-79歳、1年に1回)  
低線量CT検査  
(50-74歳、1年に1回)  
禁煙指導



## ヘリカルCT検査・・・10,450円

※自治体によっては、町村ドックでの胸部X線検査を7,150円にてCT検査に変更することができます。

またオプション検査でもご利用ください。ご不明な点のお尋ねやお申込みについては、下記までお尋ねください。

【お問い合わせ先】  
総合健診センター「コスモ」  
TEL:0966-42-2410  
内線(125,127,130)